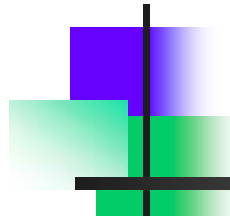


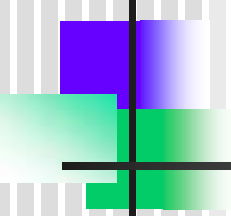
# 日本観光協会Webサービス実証実験 プロジェクト概要

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a black crosshair with a purple square at the top-left intersection and a green square at the bottom-left intersection.

2003年5月29日

XMLコンソーシアム/Webサービス推進委員会/  
技術小委員会委員長

日本オラクル(株)鈴木俊宏

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a black crosshair overlaid on a purple and green square.

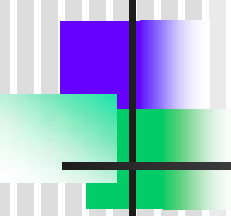
# 実証実験プロジェクトについて

## < 目的 >

Webサービスの新たな技術を用いて、実業務の効率化にチャレンジし、その有効性を検証する。

## < 実証実験内容 >

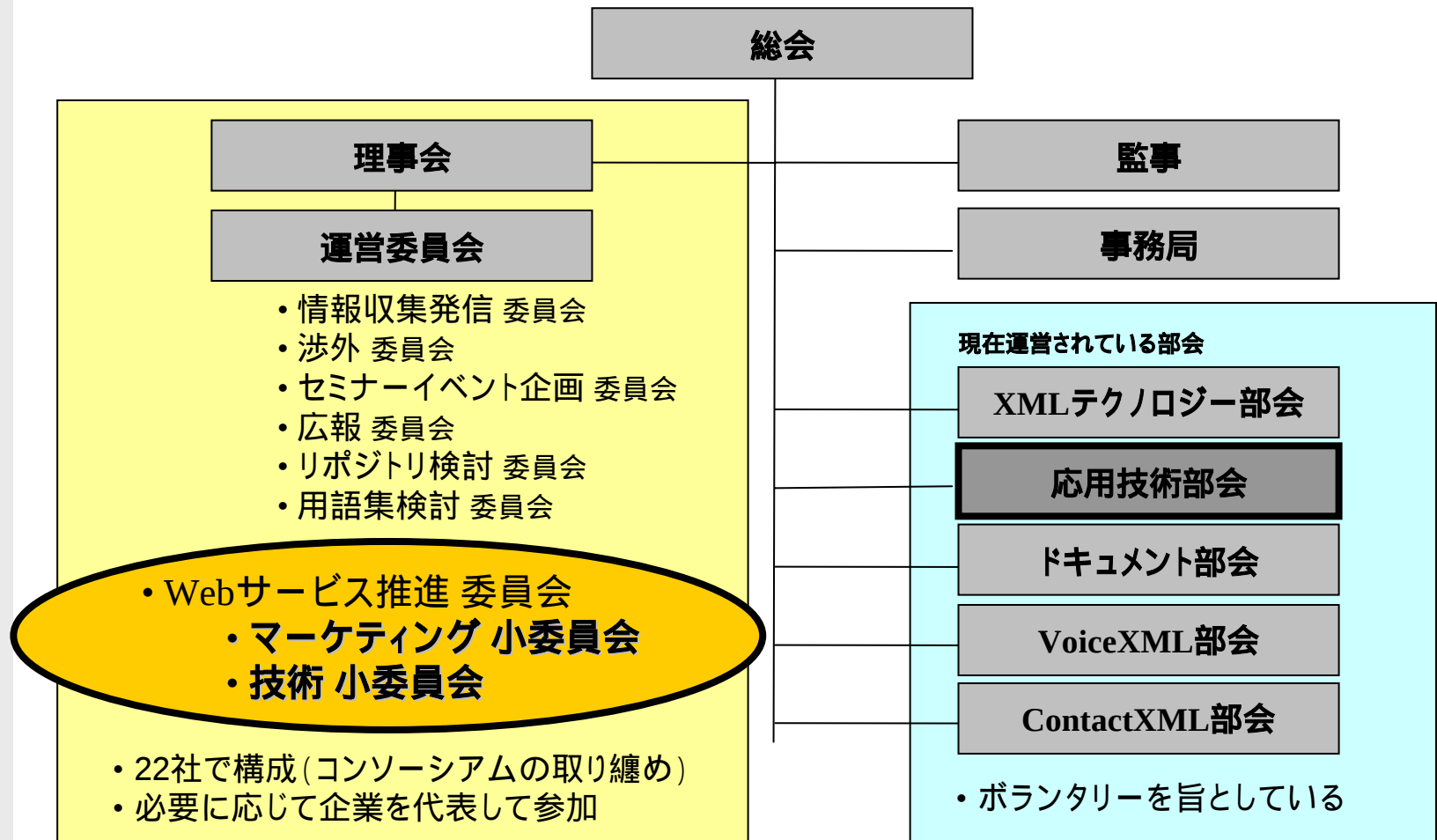
日本観光協会殿の実業務を参照モデルとして、データの登録から公開までの一連のプロセスをWebサービスを用いて統合する。

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of a black crosshair overlaid on a green square, with a purple square positioned above the crosshair.

# 実証実験プロジェクトの概要

- 実証実験システムとして、インターネット環境に擬似的な環境を構築する。
- 日本観光協会殿からは、実業務で使用しているデータを提供して頂き、実証実験のデータとする。
- 実験への参加企業が、Webサービス委員会メンバー企業及び部会から募集する。

# XMLコンソーシアム体制



# プロジェクト参加メンバー

- 日本電気

西野 陽一郎  
毛利 豊悟  
藤田 悟

- 日本アイ・ビー・エム

田原 春美  
米持 幸寿

- 日本オラクル

鈴木 俊宏  
鈴木 潤一

- 日本ユニシス

牧野 友紀  
小林 茂  
藤井 伸行  
間瀬 志帆  
森屋 将光

- 日立製作所

大場 みち子  
葛坂 将人

- 日立ソフトウェアエンジニアリング

嶋 康弘  
斉藤 克之  
篠田 拓司

- 富士通

松下 嘉哉  
松本 賢一  
山本 晃治  
永瀬 芳隆

- 応用技術部会 / PDA WG

- 都築電気

印南 至晃

- 日本アイ・ビー・エム

馬淵 玲子

- ミノルタ

的場 和男

- 富士通

斎藤 一実  
奥村 仁  
矢部 正和

- 応用技術部会 / WebサービスWG

- PFUアクティブラボ

松山 憲和

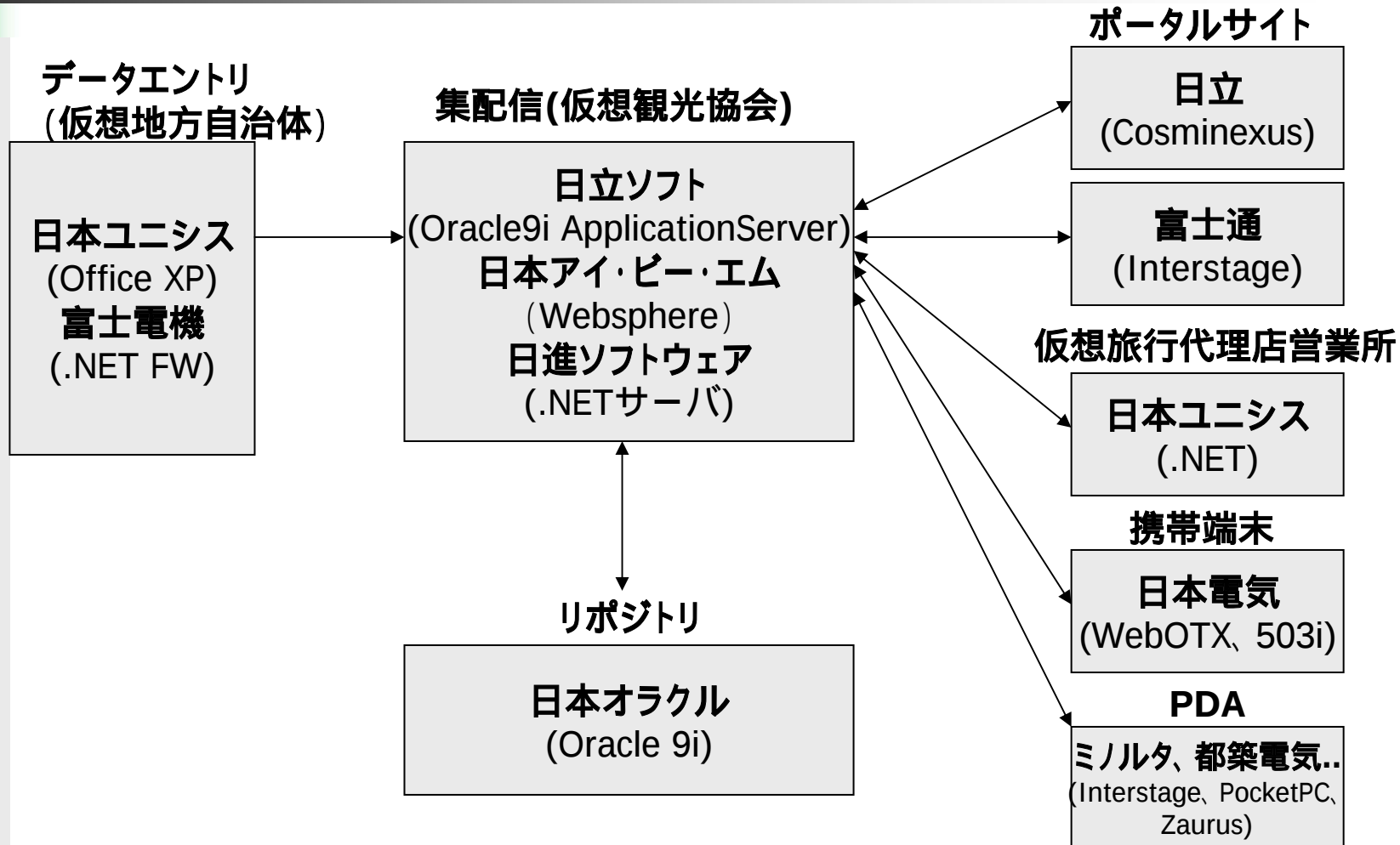
- ・ 富士電機

内山 拓

- 日進ソフトウェア

荒本 道隆  
杉野 健太郎

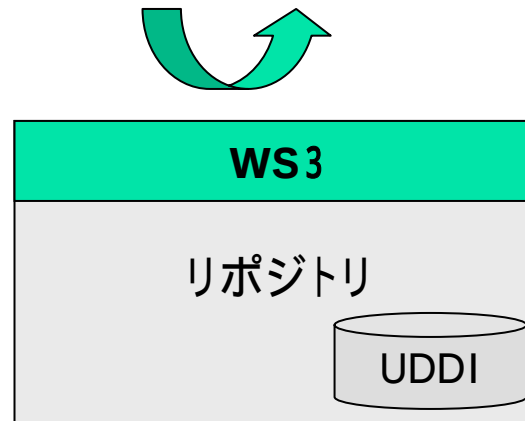
# 実証実験参加企業の開発担当分野

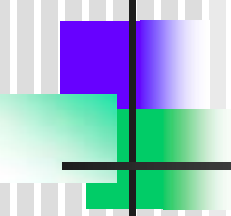


# 今回構築したシステムモデル



- : Excel又はWeb画面より日観XMLデータを集配信に投げる。(WS1)
- : 自治体からの更新をメタ情報でUDDIに登録されているサイトに通知する。全てのXMLデータは送らない。(WS2)
- : タクソノミー(ジャンルによる配信先リスト取得)によるフィルタリングを行う。I/FはUDDI(WS3)
- : ID又はリストの要求を行い。XMLデータを受け取る。エリア、ジャンル、位置情報による検索機能を付ける。(WS4)





# スケジュール

- ~ 2002/11/15: 実証実験用インターフェース定義作業
- ~ 2002/11/22: コア部分/開発企業決定(決定後作業開始)  
Webサービス推進委員会企業から選定
- ~ 2002/11/29: オプション部分/部会メンバーへの参加受付
- ~ 2003/02/28: XMLコンソーシアム内第1回接続検証  
以後、順次接続検証を繰り返す
- ~ 2003/04/17、04/22: 実証実験成果内覧
- ~ 2003/05/07: 成果発表(総会)  
/05/28: 成果発表(コンソーシアムWEEK)

# なぜWebサービスを適用するのか？

## < Webサービス導入のメリット >

- 各地のプラットフォームに依存しない。
- リアルタイムでダイナミックな接続を可能とし、迅速な情報伝達をおこなう。
- データの送受信にXMLを用いることにより、一貫した情報提供、情報の集配信 (Single-Source Multi-Use) を実現する。
- 構築コストを最小化することが可能である。